

古材再利用



『広間』を一家の財産として移築した砺波市H様

旧家屋の『広間』を『リビング』へ…

旧家屋の「広間」は材木価値の高いケヤキではなかったため、残すのかどうか検討されましたが、価値ではなく一家の財産として移築が決定。「広間」だった立派な柱の内が、家族の集う「居間」として普段の生活の場として生まれ変わりました。材木が見える壁・天井と白塗り壁は現代ではインテリアの一部としても美しく新しい住宅のシンボリック存在です。また、部分的に式台、欄間、書院など先人の匠の技が残る部分も大切に新住宅に活用されています。



独立した座敷を必要としつつも、 現在風で日当たりの良い部屋もほしい

日本家屋は、得てして暗い部屋になりがち。それでも大屋根の重なり的美しさを追求しつつも、窓の形・配置を工夫して室内の明るさも十分に確保しました。いろいろなところに小窓を用意し、自然光が十分に入ってくる空間を演出。日本風な家にめくもりと安心感を感じつつも、いつでも明るい部屋がとても気に入っていると話されています。2階リビングは大屋根の勾配を活かした高さのある天井。所々に採光窓を用意して、明るさを確保しています。



H様、ありがとうございました！



こだわりの木の家
(URL) <http://www.k-aki.com>



ソーラーサーキット富山
(URL) <http://www.k-aki.sc>



古材倉庫富山
(URL) <http://www.k-aki.com>

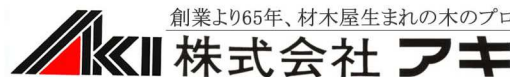


富山県古民家再生協会
(URL) <http://www.kominka-toyama.org/>



にゃん太郎ブログ
(URL) http://blog.livedoor.jp/nyantaro_since2010/

一級建築士事務所登録 富山県知事登録 第(5)861号



創業より65年、材木屋生まれの木のプロ

〒932-0862 小矢部市五郎丸62

(TEL)0766-69-8703 (FAX)0766-69-8653



1. 施工事例
『砺波市H様邸』
2. 加藤社長物語 第九話
『製材所での初仕事！』
3. 特集
『K邸現場見学会』

アキ通信

NO.9



紅葉の季節を迎えました！

澄みきった青空に
赤く染まった山々が一段と美しく感じます。

日増しに寒さがみにしむるこの時期こそ
落ち葉を集めて焼き芋を楽しみたいですね。

【告知】K邸現場見学会

9月末に行われたK邸構造見学会から約1ヶ月。現場は着々と完成に向かって工事が進められています！
構造見学会では、冬暖かくて夏爽やかなソーラーサーキット、耐震性に優れたKES工法、旧K邸の『枠の内』の
再活用や長期優良住宅等の構造に隠された秘密を見ていただきました。
今回の現場見学会では内装に県産材をたっぷり取り入れた現場をご覧ください！

現場見学会

12月3日(土)・4日(日)

小矢部市五郎丸 K邸にて 3日AM10:00-PM5:00
4日AM10:00-PM5:00



現在のK邸の
工事状況です！



K邸では、小矢部市産材として
フロアや天井に杉の無垢板が使われます。
特に『枠の内』の床に使われる杉材は、
厚30mm、幅30cm、長さ5mの一枚板を
使用するため、美しい木の質感を充分に
感じていただくことができます。

県産材や市産材を一定量使用すると、補助金を受け取ることが出来る制度もあります！
そのひとつ、K邸も補助対象となっている『とやまの木』の助成金制度をご紹介します。

とやまの木で家づくりモデル事業

■助成金額■

助成金の額は、富山県産材の使用量1㎡当たり5千～2万円。1棟当たりの限度額は50万円です。

■助成金の交付対象■ ※下記を全て満たすこと

- ①県内に自ら居住するための住宅を新築又は増改築される方
- ②県産材を3㎡以上使用する住宅(県産材の使用が目視なので確認できること)
- ③県内に事業所を有する業者によって施工される住宅
- ④平成23年4月1日以降に着工する住宅
- ⑤平成24年3月末日までに完成する住宅又は県産材の使用が確認できる住宅

※今年度の募集は締め切られました。来年度の募集にご期待ください。

詳細が決まり次第、
HPでお知らせしま
すので、そちらも
ご覧ください！



加藤社長物語

第九話

『製材所での初仕事！』



父の手術が終わり、命も無事助かりました。
結局、執行猶予というか…
未熟な私を神様、仏様が見かねてか、
7年間ほど父と一緒に仕事をする事ができました。

そして、いよいよ！
製材所の仕事を一から覚えることになりました。
最初の仕事は、な、な、なんと！

…「そり引き」でした。

昭和55年の話ですよ！この文明の世の中に…
『機械は無いのか？機械は！
こんなもん人間のする仕事じゃないやろ！』
とぼやきました。

大きな山の時は索道を張り木を搬出するのですが、
当時、少ない本数を山から切り出す時は、
木が水を吸い上げていない時期(例えば年の暮れ)
に伐採をして、年が明け雪が積もってから、
そりに材木を積み山の麓まで下ろしました。

春になってその材木を車で製材所に持ってくるため、
冬の間はもっぱら「そり引き」が日課なのです。

体は一週間ぐらいで慣れてきたのですが、
恥ずかしいのにはなかなか慣れずにいました。

その時はJR七尾線のすぐ横の山から木を出していて、
電車に乗っている人が皆、
私を見て笑っているような気がしていました。
特に女子高生がたくさん乗っている時なんかは
帽子を深くかぶったりして…(笑)
弱冠24歳の青年だったので仕方ないですよな。
とにかく恥ずかしかったなア。

次回へつづく！

※第一話より読みたい方は欄アキまで